

知っていますか？ 八ッ場ダムの真実

八ッ場ダムができると、 水力発電量が大幅に減ってしまいます

福島第一原発事故で、八ッ場ダムに水力発電を期待する声が聞かれます。でも実際は逆です。吾妻川では流れ込み式の水力発電所で古くから発電が行われています。八ッ場ダムが出来ると、ダムに水を貯めるために、水力発電所に送られている水の大半を吾妻川に戻さなければならず、その発電量が大幅に減少します（*）。そのために、国交省は東京電力に200億円程度の減電補償金を支払うことが必要と考えられます。そもそも、八ッ場ダムの主目的は発電ではなく治水と利水です。

ダム直下の吾妻渓谷に群馬県営発電所が造られる予定ですが、この新たな発電所によって生み出される発電量（*）は、失われる発電量の4分の1から5分の1に過ぎません。電力不足の今、巨額の補償金を払って、電力が減るっておかしいと思いませんか？

（*1998～2007年の10年間の実績流量を使って、八ッ場ダムができる場合の東電発電所の発電量の減少を試算すると、条件によって結果が変わりますが、現実的な条件では年平均で17,700～20,500万kW時にもなります。一方、八ッ場ダムの群馬県営発電所の計画発電量は年平均4,100万kW時です。）



▲既設の東電発電所に水を奪われている吾妻川

図：吾妻水系の水力発電所

- ★ 東京電力発電所
- ★ 県営発電所



▲発電所に吾妻川の水を送っている水路

